

おはなしりぼん



市民ユニットりぼん

八王子市横川町 1166-2 メゾンさつきの 101号

Tel.042-621-4781

発行責任者 日川 寛子

「笑恵館」は みんなのうち

2月に入っての暖かで穏やかな日、

世田谷の閑静な住宅地にある「笑恵館」を訪ねました。

「笑恵館」を訪ねるきっかけとなったのは、2年前、当法人の職員がピースボードの旅で、「笑恵館」代表の田名夢子さんと一緒に、その旅の中で「笑恵館」の紹介があり、旅が終わったら、ぜひ見学に行きたいという思いから、今回の訪問になりました。

当日、笑恵館クラブの事務局代表の松村さんが出迎えて下さいました。

2月、3月のスケジュールのいっぱい入った広報誌や、中の様子を見せていただいているところに、子育て支援のケアの合間、20分だけと戻られたオーナーの田名夢子さんとお逢いできました。



田名さん

松村さん

笑恵館へようこそ！ 「笑恵館」は小田急線祖師ヶ谷大蔵駅から徒歩4分、約120坪の敷地に建つ個人の住宅とアパートです。「笑いの絶えない恵みに満ちた家」、「人生終わりよければ全て良しとなる家」誰でも使える交流施設として2014年にオープンしました。

ホームページ (shokeikan.com/) からご紹介をします。

・笑恵館は【みんなの家】

「みんなの家」とは、「みんなが自分の家と思う家」のこと。

庭やデッキと住宅の一部を毎日開放し、誰もが気軽に休憩・仕事・会議・勉強などを楽しめる交流の場

・交流の仲間【笑恵館クラブ】登録料 500 円

笑恵館の運営は、誰でも入会できる笑恵館クラブのメンバーに支えられています。

会員は、会員サービス（アパート賃貸や、スペースレンタルなど）の利用で運営資金を提供します。

会員は、交流サークルに参加することで、地域交流を促進します。

会員は、スタッフとして笑恵館の運営に携わることができます。

伺った日は、午前中は“歌う会”の方々の集いや、“地主の学校（笑恵館を学ぶ）”の企画を行っていました。午後は学生さんたちがお好み焼きの材料を手に続々と集まってきていました。

奥にはりっぱな調理室があり、いままで入っていたパン屋さんの置き土産の業務用スチームオーブンがあり、“持ち寄り食事会”の時には大活躍だそうです。

出迎えてくださった松村さんは、田名さんが“自分の思い”を実現するためにはどうしたらよいか、世田谷区報にあった「起業・創業支援講座」に参加してからのお付き合いです。

笑恵館を「単なるオーナー個人の事業」でなく、「世代を超えて持続する地域ぐるみの事業」にするために設立した法人「日本土地資源協会」の代表です。

笑恵館の土地建物を田名夢子氏から実質無料で借り受けたオーナーとして、笑恵館クラブの事務局を担当し、非営利事業として運営しています。



陽が燦々、入口のウッドデッキ
目の前の柿の木に絡んだハヤトウリの実が落ちていました

田名さんの思い…めったに会わない身内よりも、気心の知れた近所の他人とお付き合いしながら、住み慣れたまちで人生を全うすること。土地や建物を子供に相続するのではなく、自分の後もそのまま利用、活用してもらい、その思いの通りを専門家の松村さんが仕組みにして運営していることにただただ感心するばかりでした。



◆◆ ひだまりトピック ◆◆

ひだまりの家は 2000 年からスタートし、大勢の方々に助けをもらいながら今に至ります。日々ボランティアさんとしてかかわっていただいている方は月平均 45 人にもなります。今回、お二人のボランティアの方に、広報誌への執筆をお願いしましたところ、快く受けてくださいましたので、ご紹介させていただきます。

私は『ひだまりの家』のボランティアとしてお世話になってから 2 年になろうとしています。何の特技も特になく私など、はたして務まるのかとても心配で後悔もしたりしていました。でも、スタッフの皆様・利用者の皆様方に支えられ今日に至っています。皆様はとにかく明るく、元気で、たまに出るジョークは上げたらきりがありません。忘れてはならないのが週 2 回の健康マージャンです。マージャンは、頭・手・指先を使うのでシニアには適しているそうです。皆さん、チーだのポンだの言いながら、ルールを少しずつ覚え楽しく愉快地やっています。このような『ひだまりの家』にボランティアとして御縁を頂き、本当にありがたいと思っています。これからも宜しく願いいたします。



傾聴ボランティア 五十嵐 照子

共におしゃべりしてお茶を飲み…一緒に過ごせる時間に日々感謝です

平成 26 年 2 月、夜、友人からの一本の電話から『ひだまりの家』との出会いが始まりました。書歴こそ長いものの介護の世界への書道出張は初めてのことでした。今、改めて当時を振り返りますと、皆さまの暖かい視線に励まされ継続できることに感慨無量です。また、世の中の縁というものをこれ程感じたこともありませんでした。『ひだまりの家』での一日は朝の挨拶から始まります。



利用者の方の笑顔と共に、お習字の時間です。今年もお正月は大きな紙に太筆で墨もたっぷり『書き初め』を書きあげました。いつの世も出会いがあれば、別れがあります。それ故に、今を大切に思うのです。



習字講師ボランティア 荒井 恵子

『ひだまりの家』の利用者さんが、
信松院や綾南公園などの散歩に行ったときに詠まれた句

『古寺に

上る坂あり 山すみれ』

『五分咲きの

桜並木を 通りけり』

『老いどちの

朝の散策 木瓜（ぼけ）の花』

『大寺の

水の音して さくら時』

『風光り

松姫の供花（くげ） 新し

一緒に行ったひだまりのお仲間たちのことを、自ら“老いどち”と表現されました。
ちなみに作者は88歳です。

“みんなの居場所かゝりぼん”をご存知ですか？

2016年10月に誰でもが昔の縁側のように気軽に立ち寄れる交流の場として
開所して今年で6年目、

地域の方々が息抜きに日課にして見える方

手作り大好きな仲間の方々の集いの場

南側に広がった畑からその先の牧草地を眺めると、何とも落ち着きます。

現在、コロナウイルス感染予防の為に閉所しておりますが、

いつもの時間が過ごせる日が早く戻ってくることをひたすら願っております。

“みんなの居場所かゝりぼん”のちらしを同封しました。

いつもの日々が戻りましたらぜひ、お出かけください。

みんなの居場所

